

出題範囲

大項目	中項目	小項目			
I 基礎動物看護学 I	1 解剖学・生理学	A 細胞と組織	B 細胞の構造	C 上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織	D 神経機構と液性機構による生体恒常性
	2 病理学 (基本病変)	A 変性	B 壊死	C 低形成・萎縮・肥大・過形成	D 腫瘍など
	3 薬理学	A 薬物の投与経路	B 薬理作用と有害作用	C 薬物アレルギー	D 薬物相互作用
		E 薬物の耐性	F 薬物の吸収と排泄など	G 薬物の保管	H 治験
	4 動物遺伝学	A 遺伝様式の基礎	B 遺伝子間の連鎖・組み換え	C 遺伝子の構造と機能、突然変異、発生異常など	
	5 動物行動学	A 動物行動学の基本概念	B 行動発達過程	C 行動の周期性	D 行動の動機付けなど
		E コミュニケーション行動	F 生殖行動	G 社会行動	H 維持行動
		I 動物行動の学習理論など			
	6 放射線学	A 放射線の基本的性質	B 放射線の測定法と単位	C 放射線発生装置のしくみ	D 放射線の生体への影響
		E 放射線防護と関連法規など			
	7 免疫学	A 生態防御 (免疫) の概念	B 自然免疫	C 獲得免疫	D 免疫細胞の役割
		E 体液性免疫と細胞性免疫	F 抗原抗体反応を利用した検査	G ワクチン (予防接種) など	
	8 微生物学	A 細菌の分類と細菌の構造	B 細菌の増殖と代謝	C 細菌の感染と発症	D 抗菌薬と耐性
	E ウイルスの分類と性状	F ウイルスの培養と検出法	G ウイルス感染と発症	H 真菌	
	I 微生物の滅菌と消毒	J 微生物学的検査と安全	K バイオハザード	L その他の微生物	
9 寄生虫病学	A 原虫	B 吸虫	C 条虫	D 線虫	
	E 節足動物 (ダニ・昆虫)	F 予防方法など			
10 公衆衛生学	A ヒトと動物の共生と公衆衛生	B 感染症とその対策	C 食品衛生	D 公衆衛生行政など	
11 毒性学	A 化学物質の有害作用	B 中毒など			
12 繁殖学	A 生殖器の発生と構造	B 生殖機能の調節機構	C 雌の生殖周期、発情周期および性行動	D 受精と着床	
	E 妊娠と胎子発育	F 分娩、帝王切開	G 妊娠・分娩時の異常	H 産褥期の異常	
13 野生動物学	A 野生動物の生態と生息環境	B 絶滅危惧種の保全	C 野生動物の保護管理	D 外来生物の対策と関連法規	
II 基礎動物看護学 II	1 動物看護の基本概念・職業倫理	A 動物看護の概念	B 生命倫理	C 職業倫理	D 動物福祉など
	2 動物福祉・関係法規	A 獣医師法	B 人獣共通感染症	C 感染症の予防等に関する法規	D 動物の愛護及び管理に関する法律など
	3 動物看護の展開	A 動物看護計画	B 動物看護過程	C 動物看護記録	D チームナーシングなど
	4 共通の基本看護技術	A コミュニケーション	B 保定	C バイタルサインの測定	D バイタルサインの測定 意識
		E バイタルサインの測定 呼吸	F バイタルサインの測定 脈拍	G バイタルサインの測定 体温	H バイタルサインの測定 血圧
		I 基本処置	J 基本処置 グレーミング	K 基本処置 爪切り	L 基本処置 肛門囊絞り
		M 基本処置 耳掃除	N 基本処置 排泄援助ほか		
	5 診療に伴う動物看護技術	A 臨床検査技術	B 臨床検査技術 検査機器の取り扱い	C 臨床検査技術 糞便検査	D 臨床検査技術 尿検査
		E 臨床検査技術 血液検査	F 臨床検査技術 細菌・真菌検査	G 臨床検査技術 皮膚検査	H 臨床検査技術 X線検査
		I 臨床検査技術 心電図検査	J 臨床検査技術 超音波検査	K 臨床検査技術 CT・MRI検査など	L 薬剤の投与方法
		M 薬剤の投与方法 経口	N 薬剤の投与方法 外用薬	O 薬剤の投与方法 吸引吸入法	P 薬剤の投与方法 注射法
		Q 処置	R 処置 体位変換	S 処置 包帯法	T 処置 電法など
III 応用動物看護学 I	1 受付業務	A 主訴の確認	B カルテの作成	C 入退院手続き	D 薬の説明
		E 会計業務			
	2 外来診療看護業務	A 問診	B 体重測定・体温測定	C 薬の準備など	
	3 入院診療看護業務	A 病床の準備・管理	B 排泄物の観察・確認	C 疼痛管理	D 飼い主さんのメンタルケア
		E 輸液管理	F 褥瘡管理	G 入院室の清潔確保など	
	4 周術期看護関連業務	A 術前看護	B 術前看護 手術室と環境	C 術前看護 器具と機械の準備・滅菌	D 術前看護 人員の手洗い・手術着等の装着
		E 術前看護 皮膚・眼・粘膜の術前準備	F 術前看護 動物の患者の固定	G 術中看護	H 術中看護 手術助手の役割
		I 術中看護 器具・機械出しの役割	J 術中看護 術中の患者の看護	K 術中看護 麻酔管理補助など	L 術後看護
		M 術後看護 麻酔期からの覚醒	N 術後看護 出血等確認	O 術後看護 疼痛管理	P 術後看護 創部の保護・管理
		Q 術後看護 退院時の飼い主へのアドバイスなど			
	5 環境整備看護業務	A 院内感染予防	B 入院動物のケージ清掃	C 消毒法など	
	6 動物栄養学	A 5大栄養素とその役割	B 栄養と栄養素	C エネルギーと食事の給与量	D ボディコンディションスコア
		E 基礎カロリーなどの算出法	F 動物 (犬・猫) に食べさせてはいけない食品	G 維持期の栄養管理	H 高齢期の栄養管理
	I 妊娠・授乳期の栄養管理	J 成長期の栄養管理			
7 救命救急時の動物看護	A 心肺脳蘇生法	B ショック	C 中毒	D 誤飲誤食	
	E 外傷	F 熱傷	G 熱中症	H 溺水	
	I 感電など				
8 終末期動物患者の看護	A ターミナルケア	B 動物の死の取り扱いなど			
9 予防動物看護	A 不妊・去勢手術のメリット・デメリット	B 狂犬病予防ワクチン	C ノミダニ予防	D 犬糸状虫症予防など	
10 対象動物別の看護	A 家庭動物 (犬・猫) の生態・飼育管理	B エキゾチックペットの生態・飼育管理	C 産業動物	D 実験動物	
11 パピー (子犬子猫) の看護	A パピーの飼育管理	B 社会化期の重要性	C パピーに不可欠な予防接種	D パピークラスなど	
12 シニア (老犬老猫) の看護	A シニアの飼育管理	B シニア期の機能変化	C 夜鳴き改善	D 徘徊改善	
	E 褥瘡改善	F 認知障害	G 排泄の改善など		
IV 応用動物看護学 II	1 内科系疾患	A 消化管・肝臓・膵臓・造血器などの主要症状と関連検査			B 薬物療法など
	2 心・脈管疾患	A 主要症状と関連検査	B 薬物療法など		
	3 内分泌・栄養・代謝疾患	A 主要症状と関連検査	B 薬物療法など		
	4 泌尿器疾患	A 主要症状と関連検査	B 薬物療法など		
	5 アレルギー・免疫疾患	A 主要症状と関連検査	B 薬物療法など		
	6 呼吸器疾患	A 主要症状と関連検査	B 薬物療法など		
	7 脳・神経疾患	A 主要症状と関連検査	B 薬物療法など		
	8 運動器 (筋骨格系) 疾患	A 主要症状と関連検査	B 薬物療法など		
	9 歯・口腔疾患	A 主要症状と関連検査	B 薬物療法など		
	10 皮膚疾患	A 主要症状と関連検査	B 薬物療法など		
	11 生殖器疾患	A 主要症状と関連検査	B 薬物療法など		
	12 眼科疾患	A 主要症状と関連検査	B 薬物療法など		
	13 耳鼻咽喉疾患	A 主要症状と関連検査	B 薬物療法など		